



研究者 総覧

2003



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

研究者
研究
總覽
2003

新潟国際情報大学の教育研究者総覧について

本学は平成6年春に開学致しました。平成3年から大学設置基準の大綱化が始まりましたから、まさに21世紀に向けて開学した大学と言えます。そして、本年6月には本学の創立10周年記念行事を開催致します。創立前には二学部の設置を考えておりましたが、創立の理念と目的から、一学部二学科の構成で発足しました。日本における文化、社会に対する理解と認識を基に、国際的視野を持ち国際化、情報化された社会で役立つ、意欲あり、健全で個性豊かな人材を育成することを目的としております。即ち、情報文化学部のもとに情報文化学科と情報システム学科があります。とくに情報文化学科では、实际的な英語の習得と情報システムの学習のほか、英語、中国語、韓国語、ロシア語の何れか一カ国語を約半年間の留学も加えて習得し、異文化をわが国の文化と対比しつつ理解し、社会で役立つ人物を養成すべく努力し、一方、情報システム学科では英語の濃厚な学習と同時にカナダへの短期留学による英語情報システムの学習も加え、グローバルに構築されつつある情報システムの理論と実際を会得し、その社会各分野における応用を学び、その能力を十分に活用しうる人物を養成すべく努力しております。また

両学科において、教養教育と少人数教育により、心温かく、人間性豊かな社会人を育てるべく力を注いでおります。

このような大学の目的を完遂するために相応しい教員、職員の人達が集って、開学し今日に至りました。そして開学以来、満9年を経過して、定年退職の教員の方も出て来ましたが、新任の教員も増え、新しい息吹も感じられます。大学の教育、研究の分野が大変広いことは申すまでもありませんが、本学は総合大学ほど規模は大きくありませんので、ある程度焦点を絞って学生教育を行う事ができます。それだけに教員の人達の専攻も絞られているところがありますが、大学の標榜から見られる如く、企業人としての大変貴重なキャリアを持って赴任された教員の人が多いのも特徴でありましょう。またそれぞれ中国、韓国、ロシア、米国の出身の教員の人達は日本語も普通に話しています。学生にとって大変恵まれた教員構成ではないかと思えます。

このような貴重な経歴を持つため、新潟県内外の諸大学の非常勤講師、県内官公庁の委員会委員、企業などの相談役、県や県内市町村の生涯学習や講演会の講師などを務める教員の人達も多いのでありま

す。勿論、本学独自の講演会や講習会も開催いたしており、社会に向かって開いた門戸をもっと広げたいと考えております。

この研究者総覧が本学の教員同士がお互いを知るため、また職員や学生が教員の人達を知るのに役立つ事は申すまでもありませんが、それよりも、他大学や高等学校の教職員の方々や、県内外の企業や官公庁などの沢山の方々に本学の教員の人達を知って頂きたいと思うのであります。本書の意図するところをご理解頂ければ幸いです。本書をご覧頂き、ご希望やご質問があれば、遠慮無く本学宛にご連絡頂きたいと存じております。

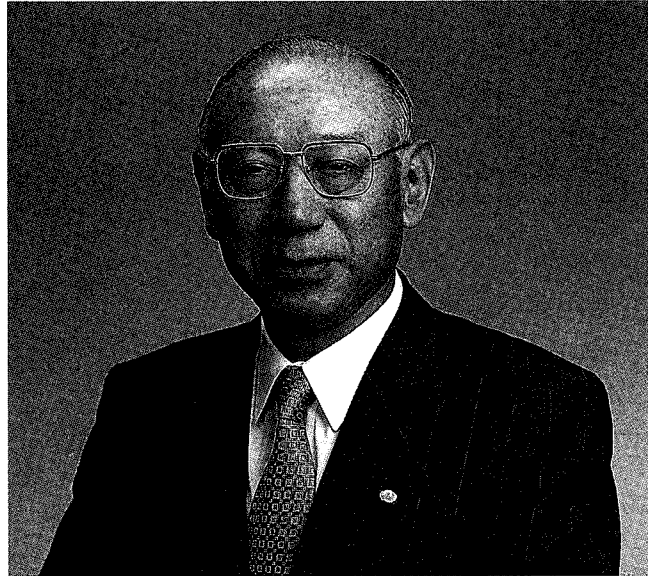
本年6月には新潟市の中心部に本学の市街地キャンパスができますので、ここで後期から主として4年次生の教育・研究を行います。同時にこれまで本校で、あるいは他施設をお借りして実施していた生涯教育・学習をここで行いますので、参加者の方に便利になるかと思えます。

2003年4月

新潟国際情報大学長 武藤輝一

目 次

学長	5
情報文化学科	8
市岡 政夫	10
區 建英	11
小澤 治子	12
原口 武彦	13
広瀬 貞三	14
アレクサンドル プラーソル	15
安藤 潤	16
臼井 陽一郎	17
越智 敏夫	18
小林 元裕	19
佐々木 寛	20
澤口 晋一	21
申 銀珠	22
高橋 正樹	23
グレゴリー ハドリー	24
矢口 裕子	25
熊谷 卓	26
長坂 格	27
ニコラ ハットン	28
ブライアン ダン	29
情報システム学科	30
赤木 敏子	32
大竹 康夫	33
苅部 恒徳	34
近藤 進	35
高木 義和	36
竹並 輝之	37
槻木 公一	38
永井 武	39
樋口 光明	40
藤瀬 武彦	41
宗澤 拓郎	42
渡辺 忠	43
石井 忠夫	44
桑原 悟	45
塚田 真一	46
平田 透	47
松井 孝雄	48
山口 直人	49
大山 毅	50
河原 和好	51
小宮山 智志	52
佐々木 桐子	53



学 長

氏 名	ムトウ テルカズ 武藤 輝一 MUTO Terukazu
性 別	男
生年月日	1929年8月5日生
職 名	学長（2000年4月）
連絡方法	E-mail : muto@nuis.ac.jp
学 歴	1954年 新潟大学新潟医科大学医学科卒業 1959年 新潟大学大学院医学研究科博士課程修了
学 位	医学博士（新潟大学、1959年3月）
職 歴	1970年10月～1992年9月 新潟大学医学部教授 1987年 6月～1989年6月 新潟大学医学部付属病院長 1989年10月～1992年1月 新潟大学医学部長 1992年 2月～1998年1月 新潟大学学長 1998年 4月～2000年3月 長岡赤十字病院長
受 賞 歴	第35回新潟日報文化賞（1982年）

研究分野 消化器外科学、外科学一般

1.消化器癌の外科

キーワード：消化器外科、癌

2.外科領域における代謝と栄養

キーワード：外科、代謝、経静脈栄養、経腸栄養

主要業績 著書

①『新外科学体系』30巻・52冊、編集・執筆、東京、中山書店、1993年1月

②『標準外科学』第1版－第8版、監修・編集・執筆、東京、医学書院、1976年6月－1998年5月

論文

①「Isopower maps of the electrogastrogram(EGG) after total gastrectomy or total colectomy」 Neurogastroenterology and Motility 11巻6号、441－448頁、1999年6月（共著）

②「温故知新－日本における静脈経腸栄養研究」 静脈経腸栄養 14巻2号、3－11頁、1999年10月（単著）

③「20世紀における外科の展開」日本外科学会誌 101巻3号、269－273頁、2000年3月（単著）

④「消化管のすべて－癌と遺伝子、移植などを含めて」病栄協ガイドブック「消化管のすべて－胃・腸－」1－9頁、日本栄養士会、全国病院栄養士協議会出版、2000年3月（単著）

⑤「消化器の病気－遺伝子診断及びピロリ菌」 学術の動向 5巻5号、50－52頁、2000年5月（単著）

⑥「これからの外科系専門医制度」日本外科学会誌 102巻3号、291－293頁、2001年3月（単著）

⑦「21世紀での胃癌撲滅に向けて」学術の動向 6巻12号、86－88頁、2001年12月（単著）

所属学会 日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会

日本外科代謝栄養学会、日本静脈・経腸栄養学会

日本小児外科学会、日本癌治療学会

その他 第17期、第18期日本学術会議会員（1997年7月～2003年7月）

情報 文化学科

市岡 政夫

區 建英

小澤 治子

原口 武彦

広瀬 貞三

アレクサンドル プラーソル

安藤 潤

臼井 陽一郎

越智 敏夫

小林 元裕

佐々木 寛

澤口 晋一

申 銀珠

高橋 正樹

グレゴリー ハドリー

矢口 裕子

熊谷 卓

長坂 格

ニコラ ハットン

ブライアン ダン

●

●

●

●

●

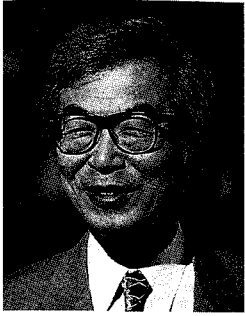
●

●

●

●

●



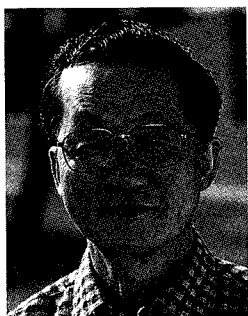
氏名	イチオカ マサオ 市岡 政夫 ICHIOKA Masao
性別	男
生年月日	1939年12月14日生
職名	教授（1994年4月）・学生部長
連絡方法	E-mail : ichioka@nuis.ac.jp
学歴	1963年 早稲田大学第一文学部露文専修卒業
学位	文学学士（早稲田大学、1963年3月）
職歴	1992年～1994年 新潟市国際文化部長 1993年～1995年（財団法人）環日本海経済研究所所長
研究分野	環日本海圏の一地域でもあるロシア極東。日・口関係の主要な舞台は常に極東の地にあった。それにも拘わらず、極東に関する研究に対しては、これまで必ずしも大きな関心が払われてきたとは言えない。日・口関係が大きく転換しようとしている今日、極東研究は日・口双方にとってますますその重要性を増している。また、戦後の日・口(ソ)関係のなかで見過ごすことができないのが、いわゆる民間外交である。特に、この分野で新潟が果たしてきた役割は小さくない。新潟を中心とする「自治体外交」についても、環日本海圏構築の立場から研究を続けていきたい。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①『自治体の国際交流』（共著）（学陽書房、1984年） ②『自治体の国際政策』（共著）（学陽書房、1988年） ③『入門ロシア極東生情報』（共著）（テレビ新潟放送網、1996年） ④『自治体外交』（単著）（日本経済評論社、2000年） <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「日本海を囲む輪を」（世界 1991年3月） ②「環日本海経済圏の主役は新潟」（エコノミスト 1991年5月） ③「環日本海経済圏の将来像」（世界経済評論 1995年4月） ④「環日本海の外資導入」（ユーラシア研究 1997年1月）
所属学会	ロシア東欧学会 日本ロシア文学会 環日本海学会
その他	モスクワ国立大学留学 ロシア語教授法（1967～1968年） 極東国立総合大学準教授 ロシア極東（1991～1992年）



氏名 区 建英 OU Jianying
 性別 女
 生年月日 1955年10月27日生
 職名 教授 (1998年4月)
 連絡方法 E-mail : ou@nuis.ac.jp
 学歴 1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業
 1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業 (文学修士)
 1993年 東京大学総合文化研究科博士課程修了
 学位 博士 (文学、東京大学、1993年3月)
 職歴 1984～1993年 (中国) 暨南大学歴史学部専任講師
 1988～1995年 学習院大学文学部兼任講師
 1993～1994年 東京大学教養学部客員研究員
 1994～1997年 新潟国際情報大学助教授
 研究分野 中国の民主化と多民族社会。中国は発展途上国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は嚴復である。また、比較研究という視点から、福沢諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバル化における中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。
 主要業績 著書
 ①『日本的市民社会』(監修) (新世紀出版社 1992年)
 ②『福澤諭吉と日本近代化』原著者・丸山真男 (編集・翻訳) (学林出版社 1992年)
 ③『近代日本と東アジア』(共著) (筑摩書房 1995年)
 ④『最新教科書・現代中国』(共著) (柏書房 1998年)
 論文
 ①「中国における福澤諭吉理解」(日本歴史学会編 日本歴史 1992年2月号)
 ②「福澤諭吉研究と丸山真男」(みすず書房 みすず 1992年10月号)
 ③「励みと悲しみ——近代中国と日本」(岩波書店 世界 1995年3月号)
 ④「丸山真男における国民国家と永久革命」(歴史学研究会編 歴史学研究 1998年3月号)
 ⑤「嚴復の政治学における国家理論」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第17巻)
 ⑥「嚴復の老荘注釈における意味」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第18巻)
 ⑦「嚴復の『天演論』における進化論の受容」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第19巻)
 ⑧「異文化の衝突と融合——中国近代文化に関する嚴復の模索」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第6号2003年3月)
 所属学会 中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会
 中国・中国日本史学会 (理事)
 アメリカ・American Political Science Association
 その他 1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。



- 氏名 小澤 治子 OZAWA Haruko
 性別 女
 生年月日 1956年4月27日生
 職名 教授(1999年4月)・情報文化学科長
 連絡方法 E-mail: haruko@nuis.ac.jp
 学歴 1979年 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業
 1986年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学
 学位 博士(法学)(慶應義塾大学、2000年3月)
 職歴 日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員
 1996年 新潟国際情報大学助教授
- 研究分野 主な研究分野は、20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察することである。特に1917年のロシア革命、また第2次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に関心をもって研究を進めてきた。
- 主要業績 著書
- ①『ロシアの対外政策とアジア太平洋—脱イデオロギーの検証』(単著)(有信堂、2000年)
 - ②『日本の岐路と松岡外交—1940~41年—』(共著)(南窓社、1993年)
 - ③『アジアの中の日本と中国—友好と摩擦の現代史』(共著)(山川出版社、1995年)
- 論文
- ①「ソビエト政権初期の対日政策(1917.11~1921.8)—対米政策との関連で」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第63巻第2号、1990年2月)
 - ②「ゴルバチョフ政権と日米関係—安保条約容認をめぐる対日政策形成機構の認識を中心に」(ソ連研究第11号、1990年10月)
 - ③「ソ連における日本軍国主義観—ブレジネフからゴルバチョフへ—」(外交時報第1276号、1991年3月)
 - ④「真珠湾とソ連外交—1941年日本をめぐる米ソ関係」(軍事史学第27巻第2・3合併号、1991年12月)
 - ⑤「ワシントン会議とソビエト外交—極東共和国の役割を中心に」(政治経済史学第307号、1992年1月)
 - ⑥「アメリカ国務省の対ソ認識(1917.11~1918.7)—駐ロシア大使フランスの役割を中心に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第66巻第2号、1993年2月)
 - ⑦「モスクワと極東、アジア・太平洋—ロシアの対外政策路線の一考察」(外交時報第1302号、1993年10月)
 - ⑧「ペレストロイカとソ連のアジア・太平洋観」(ロシア研究第18号、1994年4月)
 - ⑨「冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策—中東欧の位置づけを軸に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究 第67巻第12号、1994年12月)
 - ⑩「NATO拡大問題とCIS—ロシアの対外政策における位置づけ—」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第1号、1998年3月)
 - ⑪「ロシアの対外政策における中国—戦略的パートナーシップの限界—」(新防衛論集第25巻第4号、1998年3月)
 - ⑫「APEC加盟問題とロシア—アジア太平洋国際経済協力体制におけるロシア極東」(海外事情 第46巻第9号1998年9月)
- 所属学会 ロシア東欧学会・日本国際政治学会・アジア政経学会・軍事史学会・ロシア史研究会



氏名 原口 武彦 HARAGUCHI Takehiko
 性別 男
 生年月日 1934年10月10日生
 職名 教授 (1994年4月)
 連絡方法 E-mail : takehiko@nuis.ac.jp
 学歴 1960年 早稲田大学第一政治経済学部卒業
 1962年 早稲田大学大学院経済学研究科経済学専攻修士課程修了
 学位 経済学修士 (早稲田大学、1962年3月)
 職歴 アジア経済研究所アフリカ総合研究プロジェクト・コーディネイター
 研究分野 仏語圏西アフリカ諸国の態様を素材として、現代世界における国家と族的集団 (部族、民族、エスニック・グループ) との関係を考察する。
 主要業績
著書
 ①『部族—その意味とコートジボワールの現実—』(アジア経済研究所 1975年)
 ②『アビジャン日誌—西アフリカとの対話—』(アジア経済研究所 1985年)
 ③『転換期アフリカの政治経済』(編著) (アジア経済研究所 1993年)
 ④『構造調整とアフリカ農業』(編著) (アジア経済研究所 1995年)
 ⑤『部族と国家—その意味とコートジボワールの現実』(アジア経済研究所 1996年)
 ⑥『現代国家と移民労働者』(共著) (有信堂、1992年)
論文
 ①「私の地域研究観」私学公論 (1991年7・8月合併号)
 ②「英語圏におけるEthnicity論の展開」新潟国際情報大学紀要 (創刊号1998年3月)
 ③「Ethnicity論とアフリカ」新潟国際情報大学紀要 (第5号2002年3月)
所属学会 日本アフリカ学会
その他 チュニジア・チュニス大学社会経済研究所客員研究員 (1966・4~1967・9)
 コートジボワール社会経済研究センター客員研究員 (1967・10~1968・3)
 (1982・4~1984・3) (1988・4~1990・3)



- 氏名 広瀬 貞三 HIROSE Teizo
ヒロセ テイソウ
- 性別 男
- 生年月日 1956年1月2日生
- 職名 教授 (2003年4月)
- 連絡方法 E-mail : hirose@nuis.ac.jp
- 学歴 1979年 早稲田大学第二文学部東洋文化科卒業
 1984年 韓国・高麗大学大学院史学科韓国史専攻修士課程修了
- 学位 文学修士 (高麗大学、1984年2月)
- 職歴 1988～1994年 中央大学経済学部兼任講師 (朝鮮語担当)
 1994～1998年 新潟国際情報大学専任講師
 1998～2003年 新潟国際情報大学助教授
- 研究分野 ①朝鮮近現代史。特に近代における朝鮮社会の急速な変貌と、日本の植民地政策との関連に関心を持つ。
 ②日本近代土木史。土木史を中心に、近代日本社会の特徴を明らかにする。
- 主要業績
- 著書
- ①『間組百年史』全2巻 (共著) (同社、1989、1990年)
 - ②『ニッポン・コリア読本』 (共著) (教育開発研究所、1991年)
 - ③『産業の昭和社會史・12・土木』 (共著) (日本経済評論社、1993年)
 - ④『日本土木建設業史Ⅱ』 (共著) (日本土木工業会、2000年)
 - ⑤『日清戦争期の韓国改革運動－甲午更張研究』 (柳永益著) (共訳) (法政大学出版社、2000年)
- 論文
- ①「19世紀末日本の朝鮮鉱山利権獲得企図 (1882～94)」『史叢』 (1984年10月) (韓国) 1～66頁
 - ②「19世紀末日本の朝鮮鉱山利権獲得について－忠清道稷山金鉱を中心に」『朝鮮史研究会論文集』22号 (1985年3月) 167～187頁
 - ③「李容翊の政治活動 (1904～1907) について－その外交活動を中心に」『朝鮮史研究会論文集』25号 (1988年3月) 83～109頁
 - ④「水豊発電所建設による水没地問題－朝鮮側を中心に」『朝鮮学報』139号 (1991年4月) 1～35頁
 - ⑤「『官幹旋』と土建労働者－『道外幹旋』を中心に」『朝鮮史研究会論文集』29号 (1991年10月) 115～137頁
 - ⑥「植民地朝鮮における官幹旋土建労働者－道外幹旋を中心に」『朝鮮学報』155号 (1995年4月) 1～46頁
 - ⑦「1910年代における道路建設と朝鮮社会」『朝鮮学報』164号 (1997年7月) 1～55頁
 - ⑧「朝鮮における土地収用令－1910～20年代を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』2号 (1999年3月) 1～22頁
 - ⑨「植民地期における治水事業と朝鮮社会－洛東江を中心に」『朝鮮史研究会論文集』37号 (1999年10月) 107～131頁
 - ⑩「佐渡鉱山と朝鮮人労働者 (1939～1945)」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』3号 (2000年3月) 1～29頁
 - ⑪「三信鉄道工事と朝鮮人労働者－『葉山嘉樹日記』を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』4号 (2001年3月) 19～44頁
 - ⑫「『満州国』における水豊ダム建設」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』6号 (2003年3月) 1～25頁
- 所属学会 朝鮮史研究会・朝鮮学会・九州大学朝鮮学研究会・国際韓国語教育学会・日本植民地研究会
- その他 韓国留学 (ソウル大学語学研究所、高麗大学) (1980年8月～1984年2月)



氏名 アレクサンドル プラソル
Alexander Prasol
性別 男
生年月日 1952年10月26日生
職名 教授 (2000年4月)
連絡方法 E-mail : prasol@nuis.ac.jp
学歴 1975年 極東国立大学 (ロシア) 日本語文学科卒業
1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程終了
学位 文学修士 (モスクワ大学、1979年)
職歴 1978~1980年 極東大学東洋学部助手
1980~1985年 同学部専任講師
1985~1991年 同学部助教授
1981~1991年 同学部日本語文学学科主任
1991~1994年 新潟大学教養部助教授
1994~1999年 新潟大学人文学部助教授
1999~2000年 新潟大学人文学部非常勤講師

研究分野

大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア史概説とロシア文化論を担当するので、ロシアの過去の文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。現代のロシア人として、激しい移り変わりを体験しつつある新しいロシア連邦からのニュースを分析している。ロシア人の目で見た日本、日本人の目で見たロシア、両国間の交流と諸問題などについて考えている。

主要業績

著書

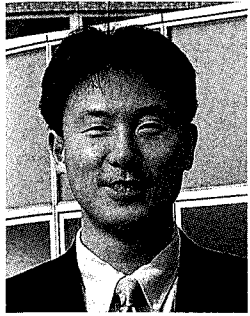
- ①『日本語会話』(共著) 極東大学出版部 1984年、172頁
- ②『日本語会話における終助詞』(単著) 極東大学出版部 1989年、1999年出版、170頁
- ③『日本教育の成立』(8~19世紀) ダリナウカ出版、2001 (単著)、391頁
- ④『明治時代の教育』(1868-1912) (単著) ダリナウカ出版、2002、358頁

論文

- ①「現代日本語における接続詞と接続助詞」(修士論文) 単著1979年(モスクワ)
- ②「現代日本語における終助詞の弁別的特徴について」(単著) 1986年(レニングラード)
- ③「ソビエトの現状と日本への期待」(単著) 1992年(新潟大学)
- ④「日本語における因果関係を表す接続方法について」(単著) 1992年(新潟大学)
- ⑤「日本語条件形式の用法をめぐって」(単著) 1995年(新潟大学)
- ⑥「現代ロシア語における俗語と隠語について」(単著) 1996年(新潟大学)
- ⑦「徳川時代の学校教育」(単著) 1998年(ウラジオストック)
- ⑧「古代日本の教育の成立と最初の教育機関」(単著) 1998年(ウラジオストック)
- ⑨「Some Features Of the Sentence-Final Particles in Japanese」(単著) 1999年(新潟大学)
- ⑩「鎌倉・室町時代の教育」(単著) 1999年(ウラジオストック)
- ⑪「徳川時代の文化と家庭教育」(単著) 2001年(ウラジオストック)
- ⑫「明治初期教育制度の変遷」(1868~1871年) 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号、2002年
- ⑬「現代日本教育について」(単著) Yaponia:Put Kisti i Mecha,2002,N3 (モスクワ)

所属学会

日本ロシア文学会、新潟大学環日本海研究会



- 氏名 安藤 潤 ANDO Jun
 性別 男
 生年月日 1968年3月25日生
 職名 助教授 (2003年4月)
 連絡方法 E-mail : ando@nuis.ac.jp
 学歴 1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
 1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
 2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了
 学位 学士 (経済学) (早稲田大学、1992年3月)
 修士 (経済学) (早稲田大学、1994年3月)
 職歴 国士舘大学政経学部・法学部非常勤講師 (2002年4月～)
 中央大学経済研究所特別研究員 (2002年10月～)
 新潟大学経済学部非常勤講師 (2003年4月～)
 研究分野 ①研究テーマ：防衛支出と経済成長に関する実証分析
 キーワード：防衛支出、externality effect, 内生的経済成長論
 研究形態：個人研究
 ②研究テーマ：ITとマクロ経済
 キーワード：生産性パラドクス、ニュー・エコノミー論、電子商取引
 研究形態：個人研究
 主要業績 著書
 ①『Current Issues in Economic Policy』「Chapter 6 A Study on the 'Peace Dividend' under the Clinton's Administration」(共書、2000年12月発行) 早稲田大学現代政治経済研究所、121-131頁、共著者：◎諏訪貞夫、松本保美、松崎慈恵、馬場正弘、鏝田亨、永富隆司
 ②『諏訪貞夫教授古希記念論文集 日本経済の新たな進路－実証分析による解明－』「日本の経済成長と日米安全保障条約に関する一考察～米国軍事支出からのスピル・インに関するexternality effectの実証分析～」(共書、2002年2月発行) 文眞堂、215-228頁、共著者：諏訪貞夫、松本保美、ほか
 ③『IT革命時代の経済と政府』第3部「グローバリズムとIT革命時代のマクロ経済政策」(共書、2002年9月発行) 文眞堂、163-220頁、共著者：長谷川啓之、谷口洋司
 論文
 ①「フランス国有保険会社GANの民営化」(単著、平成11年5月、『海外電気通信1999年5月号』、財団法人国際通信経済研究所、27-40頁)
 ②「クリントン政権下の財政政策：米国経済は「平和の配当」を享受してきたのか」(単著、平成11年12月、『昭和大学教養部紀要 第30巻』、昭和大学教養部、1-8頁)
 ③「1990年代後半における日米のIT資本とマクロ経済パフォーマンス－残差と経済成長に関する一考察－」(単著、2002年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、71-89頁)
 ④「日米におけるIT資本の労働生産性上昇効果に関する一考察－1990年代後半におけるIT資本の貢献－」(単著、2003年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、27-43頁)
 所属学会 日本経済政策学会・情報通信学会・日仏経済学会




ウスイ ヨウイチロウ
 氏名 臼井 陽一郎 USUI Yoichiro
 性別 男
 生年月日 1965年8月10日生
 職名 助教授(2000年4月)
 連絡方法 E-mail : usui@nuis.ac.jp
 学歴 1989年 早稲田大学社会科学部卒業
 1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
 1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
 学位 修士(早稲田大学経済学研究科)、MA by research(リーズ大学法学部)
 学歴 1994~1996年 早稲田大学社会科学部助手
 1997年 新潟国際情報大学専任講師
 研究分野 欧州統合論、EUの統治と法秩序、ECの環境政策と環境法。
 欧州共同体の環境政策を支える制度枠組みと、環境法規範の発展過程に関心がある。また、社会構成主義(Social Constructivism)の観点から、法に対する学際的な研究アプローチを模索している。
 主要業績 著書
 ①『世界システムの「ゆらぎ」の構造：EU・東アジア・世界経済』田村正勝・臼井陽一郎著、早大出版部、1998年2月。
 論文
 ①「EC環境立法の展開と共通意味世界の構成：社会構成主義の観点から」『新潟国際情報大学情報文化学部起要』第6号、2003年3月。
 ②「EUの環境保全とコミュニティ」田村正勝編著『〈仮題〉現代社会とコミュニティ』所収、文眞堂、2003年3月。
 ③'Evolving Environmental Norms in the European Union' *European Law Journal*,9:1,2003年3月。
 ④「EUの特異性と規範の進化」『社会科学研究』第54巻、第1号、東京大学社会科学研究所、2003年。
 ⑤「EC環境レジームの形成と欧州司法裁判所の役割：社会構成主義(Social Constructivism)の観点から」『経済社会学会年報』第24号、2002年10月。
 ⑥ 'Norm Evolution in EC Environmental Law' *Constitutionalism Web-Papers (ConWEB)* No.1/2002, 2002年1月。
 ⑦ EU研究における統治(Governance)論の射程『新潟国際情報大学紀要』第5号、2002年3月。
 ⑧ 'Governance, Legal Order, and Social Integration: Reviewing New Governance approaches in EU Studies' 『新潟国際情報大学紀要』第3号、2000年3月。
 ⑨ EUの政治システムをめぐる問題状況『新潟国際情報大学紀要』第2号、1999年3月。
 ⑩「EC環境政策の新展開とローカル環境イニシアティブ」『経済社会学会年報』第20号、1998年9月。
 ⑪「EUの通商戦略とWTOへの対応」『外交時報』第1331号、外交時報社、1996年9月。
 ⑫「EUにおける近代国家の変容と地域政策の展開」『ソシオ・サイエンス』第2号、早稲田大学大学院社会科学研究所、1996年3月。
 ⑬「EUにおけるサブディアルティの原理と協調的連邦制の概念」『ソシオ・サイエンス』第1号、早稲田大学大学院社会科学研究所、1995年3月。
 所属学会 UACES、EUSA、日本EU学会、経済社会学会



氏名 越智 敏夫 OCHI Toshio
 性別 男
 生年月日 1961年7月7日生
 職名 助教授（1999年4月）
 連絡方法 E-mail : tochi@nuis.ac.jp
 学歴 1986年 立教大学法学部卒業
 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学
 学位 法学修士（慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月）
 職歴 1992～1994年 立教大学法学部助手
 1994～1996年 シカゴ大学客員研究員
 1996年 新潟国際情報大学専任講師
 2002～2003年 ニューヨーク大学招聘研究員
 研究分野 現代政治理論、アメリカ政治論。
 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主に20世紀のアメリカ合衆国を中心にした先進諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。そうすることにより、国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。また、その議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。
 主要業績 著書
 ①『現代市民政治論』（共著、世織書房、2003年）
 ②『講座政治学 第一巻・政治理論』（共著、三嶺書房、1999年）
 ③『グローバル・デモクラシーの政治空間』（共著、東信堂、1997年）
 論文
 ①「フィクションに見る市民の司法参加」（法学セミナー増刊Causa第3号、2002年）
 ②「司法制度改革の政治的意義」（月刊司法改革第20号、2001年）
 ③「アメリカ合衆国におけるマイノリティ文化の人為的形成」（地域文化研究第4号、2000年）
 ④「他者理解の政治学：多文化主義への政治理論的対応」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要第2号、1999年）
 ⑤「日本—自閉する国民国家」（私学公論1997年3・4月号）
 ⑥「政治文化と市民宗教」（立教法学第38号 1994年）
 ⑦「アメリカ市民社会の自画像」（私学公論1993年10月号）
 所属学会 日本政治学会
 日本アメリカ学会
 American Political Science Association
 政治思想学会
 地域文化学会



コバヤシ モトヒロ
 氏名 小林 元裕 KOBAYASHI Motohiro
 性別 男
 生年月日 1963年1月1日生
 職名 助教授 (2001年9月)
 連絡方法 E-mail : Kobayasi@nuis.ac.jp
 学歴 1986年 横浜市立大学文学部文科卒業
 1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了
 1990～1992年 南開大学留学
 1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学
 学位 文学修士 (立教大学、1989年3月)
 職歴 1996～1998年 立教大学非常勤講師
 1997～1998年 宇都宮大学・日本体育大学非常勤講師
 1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員
 研究分野 日中関係論・日中近現代史
 主要業績 著書
 ①『東京裁判資料・田中隆吉尋問調書』(共編、大月書店、1994年)
 ②『天津史－再生する都市のトポロジー』(共著、東方書店、1999年)
 論文
 ①「1920年代天津における日本人居留民」(『史苑』第55巻第2号、1995年)
 ②「中国における日本現代史研究の動向」(『年報日本現代史』第1号、東出版、1995年)
 ③「天津事件再考－天津総領事館・支那駐屯軍・日本人居留民－」(『日本植民地研究』第8号、1996年)
 ④「阿片をめぐる日本と汪兆銘政権の『相剋』」(『年報日本現代史』第3号、現代史料出版、1997年)
 ⑤「Drug Operations by Resident Japanese in Tianjin」(『Opium Regimes－China, Britain, and Japan, 1839－1952』, Berkeley: University of California Press, 2000)
 ⑥「移行期における民営経済－中国・瀋陽にみる歴史的背景と現在」(共著、『東亜』2001年2月号)
 ⑦「国有企業主体地域における私営企業の発展と政治経済体制－遼寧省の事例」(『中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価』霞山会、2002年)
 所属学会 日本植民地研究会
 日本現代史研究会
 中国現代史研究会



氏名 佐々木 寛 SASAKI Hiroshi
 性別 男
 生年月日 1966年6月29日生
 職名 助教授（2003年4月）
 連絡方法 E-mail：shiroshi@nuis.ac.jp
 学歴 1990年 立教大学法学部卒業
 1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
 学位 法学修士（中央大学、1993年3月）
 職歴 1996年～1998年 立教大学法学部助手
 1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員・中央大学法学部兼任講師
 2000年～2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師

研究分野 「グローバル・デモクラシー（地球民主主義）」の理論的研究
 国境を越える社会運動およびNGOの政治学的分析
 国際機構の動態に関する理論的・実証的研究
 東アジアの安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究
 現代戦争論

主要業績 論文・その他

- ① 「J.ガルトゥング平和理論の生成と展開——平和研究の新次元」『大学院研究年報』第23号（中央大学）1994年2月
- ② 「平和研究の理論的地平——21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号（日本平和学会）1996年6月
- ③ 「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題——D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号（立教大学）1998年2月
- ④ 「『地球社会』と民主主義原理——『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号（立教大学）2000年4月
- ⑤ 「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号 2000年8月
- ⑥ 『平和研究 第26号——新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）（編著）2001年11月
- ⑦ 「Atom-Politics in East Asia：Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号（新潟国際情報大学）2002年3月
- ⑧ 「世界政治と市民——現代コスモポリタニズムの位相」高島通敏編『現代市民政治論』（世織書房）2003年2月
- ⑨ 「『安全保障』概念の位相と『沖縄問題』」『PRIME』第17号（明治学院大学国際平和研究所）2003年3月
- ⑩ A.ギャンプル「新しい世界秩序の形成——政治的能力と政策的挑戦」（翻訳）『世界化と平和の問題状況』（中央大学社会科学研究所）1999年3月
- ⑪ J.ガルトゥング「新世界知的秩序——世界をめぐる知のスタイル」（翻訳）遠藤誠治・小林誠編『グローバル・ポリティクス』（有信堂）2000年9月
- ⑫ M.ウォルツァー『グローバルな市民社会へ向かって』（日本経済評論社）（共訳）2001年10月
- ⑬ D.ヘルド『デモクラシーと世界秩序』（NTT出版）（共訳）2002年12月
- ⑭ 「冷戦後の世界政治を読む」『AERAMook 新国際関係がわかる。』（朝日新聞社）1999年5月
- ⑮ 「地球化時代の〈アイデンティティ〉」『AERAMook 人間科学がわかる。』（朝日新聞社）2001年10月 など。

所属学会 日本国際政治学会
 日本平和学会（理事）
 日本政治学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
職歴

サワグチ シンイチ

澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi

男

1959年2月10日生

助教授 (1999年4月)

E-mail : sawashin@nuis.ac.jp

1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業

1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得

博士 (地理学) 明治大学、2001年3月

1992~1996年 明治大学文学部・国士舘大学文学部非常勤講師

1994~1996年 東海大学文学部非常勤講師

1996年 新潟国際情報大学専任講師

研究分野

①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。

②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。

主要業績

著書

①『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会 (2003年)

②『山名・用語辞典』(分担執筆) 山と溪谷社 (1998年)

③『第四紀露頭集 - 日本のテフラ』(分担執筆) (日本第四紀学会 1996年)

④『世界の山々』(分担執筆) (古今書院 1995年)

⑤『山の自然学入門』(分担執筆) (古今書院 1992年)

論文

①「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」
(Cryospheric Studies in Kamchatka II 1999年)

②「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」(地学雑誌107-5 1998年)

③「北上山地における周氷河性斜面物質移動と凍上に関する野外実験」(地形19-3 1998年)

④「スピッツベルゲンの周氷河性岩屑斜面における斜面物質の移動速度とプロセス」(地学雑誌104-6 1995年)

⑤「スピッツベルゲンおよびわが国高山・山地における凍結融解による斜面物質移動」(地理学評論65-2 1992年)

⑥「Timing of the Little Ice Age Glaciation in Reindalen, West Spitsbergen, Reconstructed by Lichenometry」(Proceedings of the International Symposium on the Little Ice Age Climate 1992年)

⑦「北上川上流域における最終氷期後半の化石周氷河現象—ソリフラクションローブ、階状土の形成期と古環境—」(季刊地理学44-1 1992年)

所属学会

日本地理学会

日本第四紀学会

東北地理学会

東京地学協会

日本地形学連合


その他

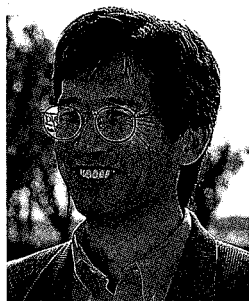
・1988~1989年夏期、教育社極地プロジェクト研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査

・1990~1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査

・1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査

・2001,2002年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズミア島、アクセルハイベルグ島調査。

- 
- 氏名 申 銀珠 SHIN Eunju
 性別 女
 生年月日 1958年3月4日生
 職名 助教授 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : sin@nuis.ac.jp
 学歴 韓国外語大学及び大学院 (修士過程) 修了後、
 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了
 学位 博士 (人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月)
 職歴 日本学術振興会外国人特別研究員、
 名古屋大学言語文化部非常勤講師 (1998.4~2001.3)
 研究分野 韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相につ
 いて。特に個人研究として、植民地時代を描いた韓国文学及び〈在日文学〉に
 ついて研究を進めている。
 主要業績 論文
 ①「韓国近代文学の中の日本文学—『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として—」
 (単著)『人間文化研究年報』第16号 (お茶の水女子大学、1993.2)
 ②「朱耀翰と川路柳虹」(単著)『淵叢』第2号 (淵叢の会、1993.3)
 ③「〈朝鮮〉から見た中野重治—植民地知識人の自画像を求めて—」(単著)
 『国際日本文学研究集會會議録』第17回 (国文学研究資料館、1994.10)
 ④「韓国における高橋新吉」(単著)
 『国文』第82号 (お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1)
 ⑤「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」(単著)
 『日語日文学研究』第28輯 (韓国日語日文学会、1996.6)
 ⑥「中野重治と韓国プロレタリア文学運動—林和、李北満との関係を中心として—」
 (単著)『日本研究』第12号 (韓国外語大学校日本研究所、1998.2)
 ⑦「日本統治期の韓国人作家と日本語」(単著)
 『日本近代文学』第63集 (日本近代文学会、2000.10)
 ⑧「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』—民族・民族問題をめぐって—」
 (単著)『淵叢』第10号 (淵叢の会、2001.8)
 ⑨「中野重治、詩的精神の憤怒の行方—〈君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍
 る〉をめぐって」(単著)『国文学』第47巻1号 (學燈社、2002.1)
 所属学会 日本近代文学会
 朝鮮学会
 お茶の水女子大学国語国文学会



氏名 高橋 正樹 TAKAHASHI Masaki
 性別 男
 生年月日 1956年3月1日生
 職名 助教授 (1998年4月)
 連絡方法 E-mail : tmasaki@nuis.ac.jp
 学歴 1981年 中央大学法学部政治学科卒業
 1990年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学
 学位 法学修士 (中央大学、1985年3月)
 職歴 タイ国タマサート大学客員研究員
 中央大学法学部兼任講師
 白鷗大学法学部非常勤講師

研究分野 タイを中心とした東南アジアの政治が研究分野です。とくに、現在は冷戦とタイの「国民国家」構築の関心に興味を持っています。近代国家は国民国家をモデルにして構築されてきました。タイも例外ではなく、国民国家の構築を目的に近代化を進めてきました。しかし、国民国家理念は支配の正当化の手段になってきましたが、その擬制による矛盾は地域間や階級間の格差の増大の固定化というかたちで表面化しています。その過程を冷戦時代のタイ国家研究を通じて明らかにすることが当面の研究テーマです。

1950年代中期以降、タイの周辺国であるベトナム、カンボジア、ラオスでは独立をめぐる国内政治の不安定が続いていました。その結果、反共の世界戦略をとるアメリカとの関係を強め莫大な経済・軍事援助を得て、国内の開発を行ない軍部の強化を図りました。バンコクの軍部を核とするタイの支配層は、その過程でタイ政治における唯一の政治集団としてその権力基盤の強化を図りました。さらに、この過程で国民形成が進められ、支配層をしめる華人がタイ国民として同化を進めていきました。

このようなタイ国民国家の形成過程を冷戦状況との関係で考察することは、冷戦構造の崩壊と経済のグローバル化の進む今日の国際状況の中で、タイ国家がどのように変容するかを考える上で重要な視点を与えてくれるでしょう。

主要業績

論文

- ① 「19世紀前半におけるバンコク王朝の政治秩序——交易港と権威交易体制——」『法学新報』第96巻1・2号 (中央大学法学会)、1989年11月
- ② 「カンボジア紛争とタイ外交 (1978—1982年)」『中央大学企業研究所年報』第14 (II) 号 (中央大学企業研究所)、1993年7月
State of Thai Studies in Japan, The Thai Seminar of Japan 編1996年9月
- ③ 「カンボジア紛争とタイ国共産党の崩壊——地域システムとタイ国家システム——」『中央大学社会科学研究所共同研究報告書』(中央大学社会科学研究所)、1997年7月
- ④ 「アロンの国際関係論の認識論的検討——その自然状態を中心に——」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』1998年3月
- ⑤ 「諸国家システムにおける国民国家」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』2000年3月
- ⑥ 「グローバリゼーションと国民国家——国家の脱国民国家化への視座を求めて——」『法学新報』110巻5・6号 (中央大学法学会) 2003年3月

所属学会 日本国際政治学会・東南アジア史学会・日本平和学会・環日本海学会・地域文化学会・日本タイ学会・Association for Asian Studies (USA)

その他 タイ国タマサート大学客員研究員 (1986～88年、1992～1994年、2001～2002年)
 アメリカでの調査・研究 (1995～1996年)



- 氏名 グレゴリー ハドリー
Gregory Hadley
- 性別 男
- 生年月日 1965年3月12日生
- 職名 助教授 (2000年4月)
- 連絡方法 E-mail : hadley@nuis.ac.jp
- 学歴 1987年 Northwest Missouri State University, USA
コミュニケーション専攻・スペイン語副専攻卒業
- 1992年 Midwestern Baptist Theological Seminary, USA
神学専攻修士課程修了
- 1997年 University of Birmingham, UK
応用言語学専攻修士課程修了
- 学位 1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師
Master of Divinity, Master of Arts (TEFL/TESL)
- 職歴 1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師
- 研究分野 ①Personal Construct Repertory Gridsによる社会的、教育的価値観の異文化間
リサーチ。
②ユダヤ・キリスト教の信仰と倫理が西洋文化の形成に及ぼした影響。
③日本の大学における効果的な英語教育カリキュラムの開発。
- 主要業績 論文
①『Classroom Teachers and Classroom Research』(共著)(全国語学教育学会、1997年)
②「英語に対する学生の不安感—その積極的学習意欲への転換」(『看護教育』
医学書院、1994年)
③「Lexis and Culture: Bound and Determined?」(『Journal of Psycholinguistic
Research』1997年)
④「Using Corpora with Japanese Beginners」(『IATEFL Newsletter』1998年)
⑤「Concordancing in Japanese TEFL: Unlocking the Power of Data-Driven
Learning」(『The Japanese Learner』Oxford University, 1998年)
⑥「An Investigation of Techniques that Encourage and Measure Oral
Communications in Japanese EFL Classrooms」(『長岡工業高等専門学校
研究紀要』1998年)
⑦「Returning Full Circle: A Survey of EFL Syllabus Designs for the New
Millennium」(『RELC Journal』1998年)
⑧「Innovative Curricula in Tertiary ELT: A Japanese Case Study」
(『ELT Journal』1999年)
⑨「Constructions across a Cultural Gap」(共著)
(『Action Research』, TESOL 2001年)
⑩「A Forecast for the Early 21st Century」(全国語学教育学会, 2001年)
⑪「Sensing the Winds of Change: An Introduction to Data-Driven Learning」
(『RELC Journal』2002年)
- 所属学会 全国語学教育学会 (JALT)
International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL)
大学英語教育学会 (JACET)



氏名 矢口 裕子 YAGUCHI Yuko
ヤグチ ユウコ
 性別 女
 生年月日 1961年2月22日生
 職名 助教授 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : yaguti@nuis.ac.jp
 学歴 1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業
 1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了
 1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学
 学位 文学修士 (法政大学、1991年3月)
 職歴 東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4~2001.3)
 受賞歴 1996年7月14日第回女性学研究国際奨励賞
 研究分野 アメリカ文学におけるジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)
 主要業績

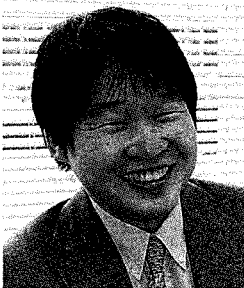
論文

- ① "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)" 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁) (1992.3)
- ② "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)" 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁) (1993.3)
- ③ 「Sam Shepard, Fool for Love-カウボーイが女を愛する時」法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁) (1994.2)
- ④ 「Sam Shepard, A Lie of the Mind-新しいイヴの歌」日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁) (1996.3)
- ⑤ "The Text That Is the Writer-Anais Nin's Diary" Anais-An International Journal. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60) (1998.3)
- ⑥ "The Imaginary Father" Anais-An International Journal. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60) (2000.3)
- ⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁) (2000.6)

所属学会 日本アメリカ文学会
 日本英文学会
 日本女性学会
 日本平和学会



クマガイ タク
氏名 熊谷 卓 KUMAGAI Taku
性別 男
生年月日 1969年1月25日生
職名 講師 (2000年9月)
連絡方法 E-mail : takuk@nuis.ac.jp
学歴 1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業
 2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学
学位 法学修士 (広島大学、1994年3月)
職歴 1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師
 1997年～1999年 広島大学法学部助手
 1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師
 2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師
 2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師
研究分野 国際法、国際刑事法。 テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを中心に現在の研究のテーマとしている。
主要業績 **著書**
 ①『ファンダメンタル法学講座 国際法』(共著) (不磨書房、2002年)
論文
 ①「欧州連合(EU)と国際テロリズム」(単著) 1997年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第20巻第3号 203頁-235頁
 ②「犯罪人引渡と国際テロリズム-フランス共和国の立法および判例から」(単著) 1998年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第21巻第3号 95頁-133頁
 ③「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制 (一) (二・完)」(単著) 1999年2月 1999年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第22巻第3号 37頁-60頁 第22巻第4号 117頁-138頁
 ④「国家テロリズムと国際法-ロッカビー事件を手がかりとして」(単著) 2002年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号 115頁-154頁
所属学会 国際法学会
 世界法学会
 米国国際法学会



氏名	ナガサカ イタル 長坂 格 NAGASAKA Itaru
性別	男
生年月日	1969年3月29日生
職名	講師 (2002年4月)
連絡方法	E-mail : nagasaka@nuis.ac.jp
学歴	1991年 国際基督教大学 教養学部卒業 1994年 筑波大学大学院 地域研究研究科修了 1998年 神戸大学大学院 文化学研究科単位取得退学
学位	修士 (地域研究、筑波大学、1994年3月)
職歴	1998年～2001年 神戸大学大学院文化学研究科助手 1999年～2002年 流通科学大学非常勤講師
研究分野	海外移住の拡大によるフィリピンの村落社会の変容、ヨーロッパへの第三世界からの移住者の流入を、フィールドワークを通じて社会人類学の視点から記述・分析すること。東南アジアにおける国家による住民の組織化を、比較社会学の観点から考察すること。
主要業績	著書 ① Population Movement in Southeast Asia: Changing Identities and Strategies for Survival (共著) (Japan Center for Area Studies, 2000年) ② 『世界の住民組織：アジアと欧米の国際比較』 (共著) (自治体研究社、2000年) ③ 『海外における日本人、日本のなかの外国人』 (共著) (昭和堂、2003年)
論文	① 「フィリピンにおけるバランガイの形成: フィリピン地域社会研究の一視点」 (『社会学雑誌』第16号、1998年) ② "Kinship Networks and Child Fostering in Labor Migration from Ilocos, Philippines to Italy." (Asian and Pacific Migration Journal Vol.7, No.1, 1998年) ③ 「故郷で養育される移住者の子供達：フィリピンからイタリアへの移住における家族ネットワーク」 (『民族学研究』61巻1号、2001年)
所属学会	日本民族学会、日本社会学会、日本オセアニア学会、日本移民学会、日本国際文化学会
その他	主な調査 1996～1998年 フィリピン、イロコス地方村落調査 (約2年) (松下国際財団による助成) 1999～2000年 フィリピン、イロコス地方村落調査 (約2ヶ月) (科学研究費補助金・国際学術研究による助成) 2001年 イタリア、スイスにおけるフィリピン人社会調査 (約1ヶ月) (科学研究費補助金・奨励研究Aによる助成) 2001年 フィリピン、マニラ首都圏紙器工場調査 (約2週間) (科学研究費補助金・基盤研究C (1) による助成) 2002年 フィリピン、マニラ首都圏紙器工場調査 (約1ヵ月) (科学研究費補助金・基盤研究A (1) による助成)



氏名 ニコラ ハットン
 Nicola Hutton
 性別 女
 生年月日 1970年10月10日生
 職名 CEPインストラクター (2002年4月)
 連絡方法 E-mail : hutton@nuis.ac.jp
 学歴 1993年 Glasgow University, Scotland
 Bachelor of Education (Hons) 卒業
 2000年 上越教育大学
 Masters in Education (修了)
 学位 Master of Education
 職歴 1993-1996年 上越市のALT
 1997-1998年 Class teacher in St. Josephs Primary School
 2000-2001年 新潟清心女子高等学校
 研究分野 ・ Self-Assessment and its Role in Children's Writing Development.
 ・ Gender Differences in Classroom Communication in Primary Schools
 ・ Gender in Education (ジェンダーと教育)
 所属学会 ・ Gender & Second Language learning
 STC (Scottish Teachers Council)
 SCRE (Scottish Council for Research in Education)
 GTC (GENERAL TEACHERS COUNCIL) SCOTLAND



氏名 Brian Gregory Dunne
 性別 男
 生年月日 1963年4月8日
 職名 CEPインストラクター (2003年4月)
 連絡方法 E-mail : dunne@nuis.ac.jp
 学歴 1985年12月 タスマニア大学 教育学部卒業
 1999年3月 マクワリー大学大学院 応用言語学科修士課程卒業
 学位 教育学学士号 (1985年12月)
 応用言語学 (TESOL) 修士号 (1999年3月)
 職歴 シドニー・スチューデント・サービス非常勤英語講師 (1997年11月～1998年7月)
 関西外国語短期大学非常勤英語講師 (1999年4月～2000年3月)
 金沢工業大学常勤英語講師 (2000年3月～2003年3月)

研究分野
 1. 課題 視聴覚教材
 キーワード 教材開発
 研究形態 個人研究
 2. 課題 意味論・語用論
 キーワード Pragmalinguistic breakdown, Language transfer
 研究形態 個人研究

研究分野の概要
 英語という言語を教える教師と、日本語を学ぶ学習者という二つの立場から言語学習を眺めるように努めています。この全く異なった立場に立つことより、実際に学習者が英語を必要とする状況設定 (言語活動の状況設定) や言語学習者が陥りやすい共通の問題などを予測し、学習者にとってより効果的で興味のもてる教授法を確立できるように模索しています。

主要実績
論文
 ① English/Japanese Codeswitching: A Case Study of a Japanese-Australian family 1999.

所属学会
 全国語学教育学会 (The Japan Association for Language Teaching)

情報 システム学科

赤木 敏子

大竹 康夫

苅部 恒徳

近藤 進

高木 義和

竹並 輝之

槻木 公一

永井 武

樋口 光明

藤瀬 武彦

宗澤 拓郎

渡辺 忠

石井 忠夫

桑原 悟

塚田 真一

平田 透

松井 孝雄

山口 直人

大山 毅

河原 和好

小宮山 智志

佐々木 桐子





氏名 アカキ トシコ 赤木 敏子 AKAKI Toshiko
 性別 女
 生年月日 1939年1月21日生
 職名 教授 (1994年4月)
 連絡方法 E-mail : akagi@nuis.ac.jp
 学歴 日本女子大学家政学部家政理学科卒業
 学位 家政学士 (日本女子大学、1961年3月)
 職歴 1962年4月 日本専売公社中央研究所 入社
 (1985年5月 日本たばこ産業株式会社に名称変更)
 1988年4月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所
 1988年1月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 主任研究員
 1994年3月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 退職
 1971年4月～1997年3月 日本科学技術連盟官能検査研究会指導委員を兼職
 1977年4月～1997年3月 実践女子学園大学非常勤講師を兼職

研究分野 日常生活における各種問題点の分析。
 情報教育の現状と今後の課題。

主要業績 論文
 ①「新潟における情報システム化状況調査」本大学共同研究 (1995)
 ②「暮らしの中の折込み広告」全国折込広告新潟大会 (1998)
 ③「暮らしの中から(2)中学生の思いやり行動 統計」日本統計協会 (2000.6)
 ④「暮らしの中から(3)若者と携帯電話とのこれからの関係 統計」日本統計協会 (2000.7)

所属学会 日本官能評価学会(理事)
 日本行動計量学会
 応用統計学会
 情報処理学会

その他 新潟県卸売り市場審議会委員



オオタケ ヤスオ
 大竹 康夫 OHTAKE Yasuo

氏名 大竹 康夫 OHTAKE Yasuo
 性別 男
 生年月日 1940年1月23日生
 職名 教授 (2002年4月)
 連絡方法 E-mail : ohtake@nuis.ac.jp
 学歴 1964年 東京大学理学部物理学科卒業
 2000年 東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程後期課程満期退学
 学位 理学士 (東京大学、1964年3月)
 職歴 1964年～1989年 NEC中央研究所およびC&Cパブリックシステム本部勤務 (コンピュータシステムの性能評価に関する研究、社会-技術システムのシステム開発、教育システム事業の推進、社内遠隔教育システムNESPACの開発に携わり、教育システム部長、本部長代理を歴任)
 1974年～1976年 (財)未来工学研究所 (科技厅所管) 出向 (主任研究員、テクノロジーアセスメントの調査研究に携わる。)
 1989～2002年 NECユニバーシティ勤務 (取締役・兼マルチメディア教育センター長、および主席技師長を歴任)
 1994年～2001年 文教大学人間科学部非常勤講師

研究分野

① ITを活用する人間活動システムのシステム計画に関する研究
 地域の産業界と連携しつつ新しいサービス/ビジネスのシステム計画の方法を探究する。

② e-ラーニングシステムに関する研究
 オンライン学習コースを開発し、地域生涯学習ネットワークへの発展形を研究する。

③ 技術経営(MOT; Management Of Technology)戦略と人材育成政策の研究

主要業績

著書

① 「企業内教育における遠隔教育」、教育システム情報学会編、『教育情報ハンドブック』、5編13.3節 (分担)、実教出版刊、2001.10
 ② 『実践・サテライト教育』、NEC文化センター刊、1990.6 (共著)

論文

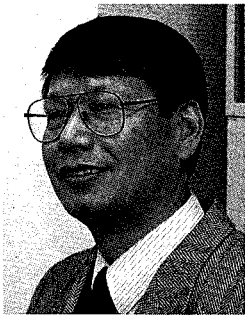
① 「Delivery of Corporate Virtual University for Workplace Continuing Learning」、Proc.ICDEDL'99、Beijing、1999.4 (共著)
 ② 「Distance Education by Satellite Communication Technology」、Proc.ASEE/ICEEP'96、Washington, D.C.、1996.6 (単著)
 ③ 「NESPACによる上流工程SE教育の展開」、情報処理学会研究報告、93-CE-30、1993.11 (共著)
 ④ 「システムズアプローチによる顧客問題解決への取り組み—システムエンジニア教育へのSSM導入の試み」、経営情報学会1993年春季全国研究発表大会、1993.5 (共著)
 ⑤ 「企業内衛星利用の動向」、テレビジョン学会誌Vol.46、N0.1、pp.13-22、1992. (単著)
 ⑥ 「A Networking Educational System with NESPAC」、『Computers in Education』、A.McDougall and C.Dowling (Ed.)、pp.997-1002、ESV、1990 (共著)』

所属学会 電子情報通信学会、情報処理学会、日本教育工学会、日本工学教育協会、研究・技術計画学会

その他 文部省放送教育開発センター研究協力者 (1992-95)
 日本工学教育協会国際委員会委員 (1998-2001)



カリベ ツネノリ
 氏名 刈部 恒徳 KARIBE Tsunenori
 性別 男
 生年月日 1937年 3月 7日生
 職名 特任教授 (2002年4月)
 連絡方法 E-mail : karibe@nuis.ac.jp
 学歴 1959年 新潟大学人文学部英文科卒業
 1965年 東京都立大学人文科学研究科博士課程英文学専攻満期退学
 学位 文学修士 (東京都立大学、1962年3月)
 職歴 1965年 成蹊大学文学部専任講師
 1967年 新潟大学教養部専任講師
 1968年 新潟大学教養部助教授
 1983年 新潟大学教養部教授
 1994年 新潟大学人文学部教授
 研究分野 英語教育、英語辞書学、英語語源学、英語史、中世英語英文学、社会言語学など、英語と歴史・社会・文化・教育との関係分野
 主要業績 著書 (共著)
 ① 中島文雄編『岩波英和大辞典』(岩波書店1970年)
 ② 小稻義男編『研究社新英和大辞典第5版』(研究社1980年)
 ③ 中島文雄ほか編『岩波新英和辞典』(岩波書店1981年)
 ④ 宮部菊男ほか編『ロイヤル英和辞典』(編集)(旺文社1990年)
 ⑤ 寺澤芳雄編『英語語源辞典』(編集)(研究社1997年)
 ⑥ 『原文対訳「カンタベリィ物語・総序歌」』(松柏社2000年)
 ⑦ 『徹底解明 欽定英訳聖書 初版「マタイ福音書」— 解説・原文・註解・文法—』(2002年研究社)
 論文 (単著)
 ① "Old English Palatalization" Metropolitan、No.9 (1964.10)、1-11.
 ② "On the Relationship between Relatives and Antecedents in the Parker MS of the Anglo-Saxon Chronicle from Genealogical Preface to 924" 成蹊大学文学部紀要、第1号(1965.12)、1~11.
 ③ 「対訳「ペーオウルフ」(一)、(二)、(三)、(四)」新潟大学教養部研究紀要、第20集(1989.12)、第21集(1990.12)、第22集(1991.12)、第25集(1993.12)。
 ④ 「親称の "Thou" と敬称の "You" — 英語における 2 人称代名詞の歴史」新潟大学英文学会誌、第28号 (1999.8)、1-16.
 ⑤ 「Chaucer の描く中世人の群像」新潟大学言語文化研究、5号 (1999.12)、33-48頁。
 ⑥ 「英語差別用語の基礎的研究 (1) : 性差別語」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第4号 (2001.3)、1-17頁。
 所属学会 日本英文学会
 日本中世英語英文学会
 日本大学英語教育学会
 新潟大学英文学会



氏名 コンドウ ススム 近藤 進 KONDO Susumu
 性別 男
 生年月日 1949年3月5日生
 職名 教授 (2001年9月)
 連絡方法 E-mail : kondo@nuis.ac.jp
 学歴 1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業
 学位 京都大学博士 (工学) (1994年5月)
 職歴 1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所
 研究分野 光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調期、光スイッチ、受光素子)
 および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)
 主要業績 論文
 ① "Liquid phase-epitaxial growth of single-crystal LinbO3 thin film",
 Appl.Phys.Lett.26, p489 (1975)
 ② "LPE growth of Li (Nb,Ta) O3 solid-solution thin film waveguide on LiTaO3
 substrate", J.Crystal Growth 46,p314 (1979)
 ③ "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/
 InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61,p8 (1983)
 ④ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53,
 p273 (1989)
 ⑤ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization
 insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25,p385
 (1996)
 ⑥ "Ruthenium doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs Multi-
 Quantum-Well Mcdulators", Jpn.J.Appl.Phys.41, p.1171 (2002)
 所属学会 電子情報通信学会
 応用物理学会



氏名 高木 義和 TAKAGI Yoshikazu
 性別 男
 生年月日 1949年10月20日生
 職名 教授（1996年4月）・情報センター長
 連絡方法 E-mail : takagi@nuis.ac.jp
 学歴 1973年 京都大学農学部食品工学科卒業
 学位 農学博士（京都大学、1983年3月）
 職歴 1973年～1996年 日本たばこ産業株式会社（入社時は日本専売公社）
 葉たばこ香喫味成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、
 新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する
 科学情報の管理業務に従事。

研究分野 情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源
 ととらえ、実体としての組織や社会における、有効な情報発信、情報受信、情
 報管理、情報解析等、情報の価値に関する研究を行っている。

主要業績 論文
 ①「概説情報論～情報とは何か～」単著、2002.12～2003.4 知のwebマガジ
 en、(12)2002～(4)2003 (<http://www.shiojigyo.com/en/>)
 ②「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育と
 しての情報検索」単著、2002.3
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002
 ③「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」単著、1999.3.19
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999
 ④「情報資源としてのインターネット」単著、1997.10.14
 第34回情報科学技術研究集会発表論文集、163、1998
 ⑤「インターネットによる情報検索」共著、1996.10.22
 第33回情報科学技術研究集会発表論文集、53、1997
 ⑥「インターネットにおける情報検索」（情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996）
 ⑦「水府葉たばこの香気成分に関する研究」（京都大学農学部博士論文 1982）
 その他の文献 (<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/>を参照)

所属学会 三田図書館情報学会
 情報処理学会
 日本栄養・食糧学会
 日本分類学会

その他 (財)バテルメモリアル研究所 客員研究員（1987）
 情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員（2001.4～）



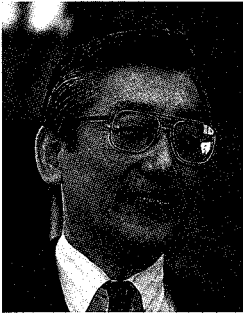
氏名 竹並 輝之 TAKENAMI Teruyuki
 性別 男
 生年月日 1941年1月29日生
 職名 教授（1994年4月）・情報システム学科長
 連絡方法 E-mail : takenami@nuis.ac.jp
 学歴 1963年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
 1965年 慶應義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了
 学位 工学修士（慶應義塾大学、1965年3月）
 職歴 1965年（株）東芝入社。情報システムの開発、プロジェクト管理、セールスサポート等に従事、流通・金融システム事業部システム部長、情報処理・制御システム本部システム担当技師長を歴任し、1994年退職。

研究分野 ビジネス情報システムを開発するための、システム分析、設計、開発方法及びシステム開発プロジェクトの管理方法、情報システムの評価方法の研究を通して、良い情報システムとはどのようなものか、使いやすく、役に立つ情報システムはどのように設計すれば良いかを追究する。また、来たるべきネットワーク社会に対応した企業組織の変化、その中における管理者の役割と行動の変化について研究する。

主要業績 著書
 ①『多変量解析の基礎』（共訳）サイエンス社（1972）
 ②『情報システムハンドブック』（共編）培風館（1989）
 ③『応用システム開発の重点解説』（共著）アイテック（1995）

論文
 ①「ソフトウェアの標準化」（共著）NTIS（1979）
 ②「産業界が期待する情報システム技術者教育について」私学公論（1991）
 ③「UNIXベースのクライアント/サーバ大規模ビジネスシステムの構築」情報処理学会（共著）（1993）
 ④「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」（共著）情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム（2001）

所属学会 情報処理学会
 三田図書館情報学会



氏名 ツキギ コウイチ 槻木 公一 TSUKIGI Kouichi
 性別 男
 生年月日 1946年10月9日生
 職名 教授（1996年4月）・情報文化学部長
 連絡方法 E-mail : tsukigi@nuis.ac.jp
 学歴 1971年 東京大学工系大学院航空学修士課程修了
 学位 航空学修士（東京大学、1971年3月）
 職歴 1993年～1996年（財）鉄道総合技術研究所SI 事業推進部長
 研究分野 情報システム分析設計方法論。座席予約システムやTPモニタなどの応用研究と実システムの開発経験を踏まえ、個人・企業・社会などの組織体と情報処理技術が適切に役割分担あるいは相互補完して、融和一体化した情報システムを構築するための方法論を追及する。特に、時空間軸で動的に変化せざるを得ない組織体の活動プロセスを十分に視野にいれたデザインの枠組みや情報システムのモデル作りを進めている。

主要業績

著書

- ①『オンラインシステムのソフトウェア』産業図書（共著）1977年
- ②『新版データ通信』電子通信学会（共著）1979年
- ③『ソフトウェア指向アーキテクチャ』オーム社（共著）1985年
- ④『情報システムの分析と設計』培風館（共訳）1995年

論文

- ①「Distributed processing networks in the seat reservation system of JNR」proceedings of the Canadian Conference on Industrial Computer systems（共著）1984年
- ②「オンラインシステムのスループットの動作論的解析」情報処理学会論文誌（共著）1985年
 「顧客販売総合システムにおける発売実績データベースの構築」鉄道総合技術研究所報告 1985年

フィールドワーク等

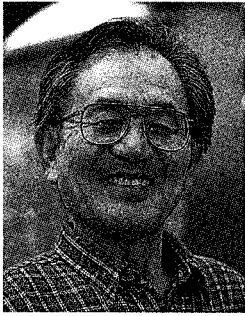
特許（1905460）指定券発行装置（共案）1987年
 特許（1444294）高速出札システム（共案）1988年
 特許（1542849）端末ファイルの保守方式（共案）1990年

所属学会 情報処理学会
 人工知能学会

その他 学会活動：情報処理学会理事（1995.5～1997.5）
 技術士（情報処理部門20500）



氏名 ナガイ タケシ 永井 武 NAGAI Takeshi
 性別 男
 生年月日 1937年12月13日生
 職名 教授 (1995年4月)
 連絡方法 E-mail : nagai@nuis.ac.jp
 学歴 早稲田大学第一理工学部金属工学科卒業
 学位 工学博士 (早稲田大学、1976年2月)
 職歴 1981年～1987年 (株)富士通研究所材料技術部長
 1988年～1990年 (株)富士通研究所管理部長
 1991年～1995年 (株)富士通研究所情報システムセンター長
 研究分野 オープンな情報システムの構築
 オープンな情報システムの運用
 主要業績 著書
 ①『世界を結ぶ情報ハイウェイ—インターネット入門』富士通経営研究所 (1994)
 論文
 ①菊池浩明、黒田康嗣、永井武：情報処理学会誌、36巻 (1995)、第8号「プライバシー強化メールPEMにおける証明書配布局の実装と評価」 p.2063.
 ②共著、コラボレーション研究会編「情報孤島日本の危機」工業調査会 (1996)
 ③永井武、関英基、槻木公一：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第2号 (1999)「新潟国際情報大学の就職情報システム」 p.237.
 ④永井武：市政、vol.48 (1999)、第3号「ネットワーク社会に向け地方行政ができること」 p.21
 ⑤永井武、関英基：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号 (2000)「ネットワーク社会に必要な日本および世界の情報通信基盤の状況」 p.219.
 所属学会 情報処理学会



氏名 樋口 光明 HIGUCHI Mitsuki
 性別 男
 生年月日 1937年9月3日生
 職名 教授 (2003年4月)
 連絡方法 E-mail : hig@nuis.ac.jp
 学歴 1961年 九州大学理学部数学科卒業
 学位 理学士 (九州大学、1961年3月)
 職歴 1961年4月～1986年3月 旭化成工業株式会社
 1987年 旭化成情報システム株式会社出向
 1991年 延岡コンピュータ・アカデミー出向
 1996年4月～ 新潟国際情報大学専任講師

研究分野 情報処理システムの設計全般。上流工程（フィージビリティスタディ）から下流（プログラミング）まで。特に最近は人工知能、その中でもエキスパートシステムの設計・開発。ここ数年は遺伝的アルゴリズムを用いたスケジューリング問題の解法。

主要業績 著書

- ①『農業分野におけるエキスパートシステム適用可能性』旭リサーチセンター 1988年

論文

- ①「多品種少量生産向上の製造スケジューリングに対するGAの適用」情報処理学会 1995年
- ②「遺伝的アルゴリズムのフライトスケジューリング問題への適用」電子情報通信学会 1996年
- ③「変則遺伝的アルゴリズムによる新潟県の衆議院議員選挙（小選挙区）の選挙区分割についての試案」1998年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第1号 217～231頁
- ④「An Application of the Genetic Algorithm to Scheduling Problems Using the Concept of Differential Penalty.」1996年9月 Second Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering. 202～205頁
- ⑤「『組合わせ問題』に適用する遺伝的アルゴリズム ～交叉不使用の意味するもの～」単著 2000年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号241～253頁
- ⑥「Applying of Character Preserving Mutation to Scheduling Problem」2000年9月 Knowledge Based Software Engineering 59～64頁
- ⑦「形質遺伝を重視した突然変異の提案とその有効性」2001年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第4号123～135頁
- ⑧「A proposal for a swap-type mutation of the genetic algorithm and its application to Job Shop Scheduling problems」2002年9月 IOS press/Knowledge-Based software Engineering 307～312頁
- ⑨「二つの「交換型突然変異」の発想の必然性」2003年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号

所属学会 情報処理学会
 人工知能学会



氏名 藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko
 性別 男
 生年月日 1962年4月22日生
 職名 教授 (2002年4月)
 連絡方法 E-mail : fujise@nuis.ac.jp
 学歴 1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業
 1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了
 1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了
 学位 体育学修士 (東海大学、1987年3月)
 博士 (医学) (東海大学、1992年9月)
 職歴 1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師
 1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師
 1998年4月～ 新潟国際情報大学助教授
 研究分野 2002年4月～ 新潟国際情報大学教授
 主要業績 体育学 (運動生理学、肥満学)

論文

- ① 藤瀬武彦・重原麻里・長崎浩雨・高橋 努・岩垣丞恒・山村雅一
 「無酸素的運動時の高濃度酸素ガス吸入が作業成績に及ぼす効果」
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第5号、265～282、2002年
- ② 藤瀬武彦「日本人青年女性における体型の自己評価と理想像 ― アジア人
 及び欧米人青年女性との比較 ―」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、
 第4号、105～122、2001年
- ③ 藤瀬武彦・長崎浩雨「青年喫煙者の漸増負荷運動における作業成績及び生
 理的変量に及ぼす一時的喫煙中止の効果」新潟国際情報大学情報文化学部
 紀要、第3号、187～202、2000年
- ④ 藤瀬武彦・長崎浩雨「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体
 力的特徴」体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年
- ⑤ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・山村雅一「持久的運動鍛練者
 の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学、第
 10巻第2号、87～96、1998年
- ⑥ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一「漸増負
 荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量
 に及ぼす効果」トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年
- ⑦ 藤瀬武彦・杉山文宏・松永尚久・長畑芳仁「一般青年男女における筋力評
 価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み」体育学研究、第39巻第6号、
 403～416、1995年
- ⑧ Fujise,T., Terao,T., and Nakano,S. 「Effects of endurance training under
 hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.」Tokai J. Exp. Clin.
 Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992
- ⑨ 藤瀬武彦・内山秀一・寺尾 保・中野昭一「ラットの糖・脂質代謝に及
 ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学、第40巻第
 2号、208～218、1991年

所属学会 日本体育学会・日本運動生理学会・日本体力医学会

日本肥満学会・日本生理学会

その他 新潟県パワーリフティング協会理事 (1998年度～)・新潟県体育学会理事 (1998
 年度～)・巻町総合体育館建設検討委員会委員 (2001年度～)・新潟県健康運動実
 践指導者認定試験委員 (2003年～)



氏名 宗澤 拓郎
性別 男
生年月日 1935年1月16日生
職名 教授 (1998年4月)・就職指導委員長
連絡方法 E-mail : munezawa@nuis.ac.jp
学歴 1958年 東京大学工学部応用化学科卒業
1993年 筑波大学大学院政策科学科修士課程修了
学位 経営学修士 (筑波大学、1993年3月)
職歴 1958年～1993年 味の素株式会社
1994年4月～ 新潟国際情報大学助教授

研究分野

- 1) 地場産業へ貢献できる情報システムづくり
- 2) iモード携帯電話を活用したニュービジネスの開発
- 3) 研究開発マネージメント

主要業績

著書

- ①『持続的成長のためのマネージメント』(白桃書房(共著) 1996年)
- ②『情報システムにおける要求工学に関する調査研究』(産業研究所(共著) 1995)

論文

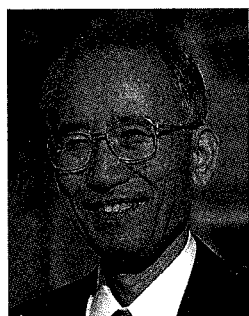
- ① "R&D Portfolio management" ,TWAIN'94 (1994)
- ② 「情報システムの品質：成功事例」情報処理学会情報システム研究会研究会誌 (1995)
- ③ 「グローバリゼーションとコアテクノロジー」研究・技術計画学会第10回 年次学術大会講演要旨集 (1995)
- ④ 「バーチャル買い物によるデータベース教育」私情協ジャーナル (1996)
- ⑤ 「戦略性・独創性を2軸とする研究開発ポートフォリオマネージメント方式の提唱」研究・技術計画学会誌 Vol.11,No.3&4、(1996)
- ⑥ 「研究開発マネージメント方法論の提唱」研究・技術計画学会、Vol.11, No.3&4、(1996)
- ⑦ "R&D management for better Performance" PICMET'97,p.516-519 (1997)
- ⑧ 「新潟県製造業の新製品開発に関する調査」、中央大学経済研究所年報、第20号、p199-224、(1998)
- ⑨ 「新製品がつくる新文化」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、(2000)
- ⑩ "Proposal of "Culturability" ,as an Index of R&D" PICMET'99, (1999)
- ⑪ 「高齢者はどんな情報を求めているのか？ー心のバリアフリーを目指してー」情報システムと社会環境、77-7、共著 (2001)
- ⑫ "InterMediator agent to obtain "Condensed Information" for "i-business" ", PICMET'01, (2001)
- ⑬ 宗澤拓郎、「新潟地場産業の現状と提言」、中央大学経済研究所年報、第32号 (1)、P.231・248、(2002)
- ⑭ Takuro Munezawa, "The Consciousness Survey on Use of Mobile Phones by the Aged",Japan-US Joint Seminar on E-business and i-business,P.113-119, (2002)
- ⑮ Takuro Munezawa, " The R&D Strategy of Exellent Electronic Companies",ISMOT'02 & ICMIT2002, (2002)

所属学会

化学工学会、研究・技術計画学会、日本OR学会、情報処理学会、組織科学会 Association of Information Systems

その他

信越情報通信懇談会：新世代情報通信網委員会副委員長



氏名 渡辺 忠 WATANABE Tadashi
 性別 男
 生年月日 1939年2月11日生
 職名 教授 (1994年4月)
 連絡方法 E-mail : watanabe@nuis.ac.jp
 学歴 1961年 北海道大学理学部数学科卒業
 1966年 防衛大学校理工学研究科電子工学専攻課程修了
 1970年 上智大学大学院経済学研究科修士課程修了
 学位 経済学修士 (上智大学、1970年3月)
 職歴 1984年 防衛庁陸上幕僚監部分析室長 (2年4ヶ月)
 1988年 防衛庁統合幕僚監部分析室長 (3年)
 受賞歴 日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー 1994年4月
 研究分野 オペレーションズ・リサーチ (OR)
 地域のOR、行政のOR、軍事のOR
 主要業績 著書
 ①『初等ORテキスト』日科技連出版社 (共著) 1972年
 ②『ORワークブック』日科技連出版社 (共著) 1984年
 論文
 ①「災害における輸送の問題」(共著) 日米ORセミナー 1989年
 ②「21世紀における防衛のあり方」(共著) 防衛庁ORセミナー 1990年
 ③「戦闘シミュレーションについて」(単著) 陸戦研究 12月号 17—34
 1993年
 所属学会 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 経営情報学会
 日本シミュレーション学会



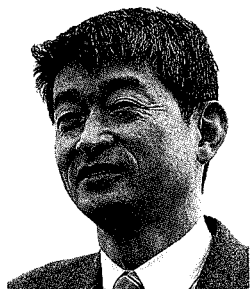
氏名 石井 忠夫 ISHII Tadao
イシイ タダオ
 性別 男
 生年月日 1955年11月3日生
 職名 助教授 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : ishii@nuis.ac.jp
 学歴 1980年 山形大学工学部電子工学科卒業
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了
 学位 工学修士 (山形大学、1982年3月)
 博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)
 職歴 1982年 日立製作所(株)入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学
 分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度
 計、液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年
 に退社。
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。
 研究分野 1) 非標準論理, 特にnon-Fregean logicの体系の研究
 2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究
 主要業績 論文
 ① 「Propositional calculus with identity」, Bulletin of the Section of Logic,
 University of Łódź, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104.
 ② 「A note on varieties of PCI-algebras with EDPC」, Bulletin of the Section
 of Logic, University of Łódź, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81.
 ③ 「Nonclassical logics with identity connective and their algebraic
 characterization」, March 2000, Doctoral thesis, JAIST.
 ④ 「Propositional calculus with identity」, Proceedings of the 31st MLG
 meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, PP.22-24.
 ⑤ 「Modality, implication and identity」, XLV History of Logic Conference,
 October 26-27, Jagiellonian University, Krakow, Poland 1999.
 ⑥ 「An Extension of Martin-Löf's Type Theory with an Evolution Relation」,
 Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9-12,
 Japan 2001, pp.33-37.
 所属学会 日本数学会
 日本ソフトウェア科学会
 情報処理学会



クワハラ サトル
 氏名 桑原 悟 KUWAHARA Satoru
 性別 男
 生年月日 1956年7月15日生
 職名 助教授 (2001年4月)
 連絡方法 E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp
 学歴 1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業
 1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業
 1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了
 学位 工学修士 (東京農工大学、1983年3月)
 職歴 1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任
 2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ
 研究分野 情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。
 主要業績 論文
 ①『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』共著 1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤
 ②「三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実際」日本テクノセンター セミナー講演 1999年
 ③「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」共著 2000.1 (財) 関西情報センタ機関紙 (財) 関西情報センタ 桑原、中村
 ④『EC・セキュリティソリューション』2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他
 ⑤『組織の情報セキュリティ実現のための組織内外の役割とその遂行に必要な教育に関する検討』単著 2001.9 情報処理学会第63回全国大会 情報処理学会 桑原
 ⑥『Mobile phone as secure terminal for e-business』単著 2002.8 Japan-US Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA
 ⑦『一般消費者のインターネット利用環境における脅威と対処可能反対策』単著 2003.3 情報処理学会第65回全国大会 情報処理学会 桑原
 所属学会 情報処理学会
 日本リスク研究学会
 その他 ・米国公認情報システム監査人 (CISA)
 ・新潟県電子県庁システム基本設計プロポーザル審査委員長
 ・日本電子署名・認証パートナーシップ運営委員
 ・情報処理技術者試験 (経済産業大臣所管) 試験委員



ツカダ シンイチ
氏名 塚田 真一 TSUKADA Shin-ichi
性別 男
生年月日 1970年2月23日生
職名 助教授 (2002年4月)
連絡方法 E-mail : tukada@nuis.ac.jp
学歴 1993年 中央大学工学部数学科卒業
 1995年 中央大学大学院理工学研究科数学専攻修士課程修了
 1998年 中央大学大学院理工学研究科数学専攻博士後期課程修了
学位 理学修士 (中央大学、1995年3月)
 博士 (理学) (中央大学、1998年3月)
職歴 1998年4月～1999年3月 文部省・統計数理研究所中核的研究機関研究員
 1998年4月～1999年3月 中央大学工学部共同研究員
 1999年4月～2000年3月 工学院大学工学部非常勤講師
 1998年4月～2002年3月 東京医科歯科大学大学院医学系研究科非常勤講師
 1998年4月～2002年3月 新潟国際情報大学専任講師
 2000年4月～2002年3月 新潟大学理学部非常勤講師
 1998年4月～ 明星大学日野校舎非常勤講師
 2001年4月～ 埼玉学園大学非常勤講師
 2002年4月～ 新潟大学工学部非常勤講師
受賞歴 日本計算機統計学会 奨励賞 受賞 (1999年)
研究分野 専門は多変量統計解析です。分散共分散行列の固有ベクトルの仮説検定問題について研究しています。今まではパラメトリックな方法を研究し、検定統計量の近似分布の導出や検出力の検討を行ってきました。多変量解析ではいろいろな統計量の分布が実用的な形で求まらないこともあり、そのような場合に有効な方法が漸近展開による分布の近似です。このような分布の近似やノンパラメトリックな検定にも興味があります。
主要業績 **論文**
 ①Tsukada, S. (1999) 「Wald criterion for several latent vectors of covariance matrices」 (Bulletin of the International Statistical Institute, Contributed Papers, 52nd Session, Volume 2.)
 ②塚田真一・牛沢賢二 (2000) 「分散共分散行列の固有ベクトルに関するある検定統計量の帰無分布の漸近展開」 (産能大学紀要, 第21巻 (1) 21-35)
 ③Tsukada, S. & Sugiyama, T. (2003) 「Asymptotic distributions and confidence intervals of component loading in principal component analysis」, New Developments in Psychometrics, 681-688.
所属学会 日本統計学会
 日本計算機統計学会
 日本数学会
 American Statistical Association
 Institute of Mathematical Statistics
その他 2001年1月～日本計算機統計学会 評議員/広報・ネットワーク委員
 2003年1月～日本計算機統計学会 企画理事



氏名 平田 透 HIRATA Toru
 性別 男
 生年月日 生年月日 1952年3月8日
 職名 職名 助教授 (2003年4月)
 連絡方法 E-mail : hirata@nuis.ac.jp
 学歴 1975年 北海道大学工学部電気工学科卒業
 1977年 北海道大学経済学部経済学科卒業
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士前期課程修了
 2003年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了
 学位 博士 (知識科学、北陸先端科学技術大学院大学、2003年3月)
 職歴 (株) 東急総合研究所主任研究員、関東学院大学非常勤講師
 富山短期大学専任講師 (1990年4月~2002年3月)
 同 助教授 (2002年4月~2003年3月)
 研究分野 ①e-マーケティング:インターネットの発達により、従来型の流通や企業のマ
 ーケティング活動は新しい方法論が求められている。このような変化とこれ
 からのマーケティングの考え方や具体的展開について研究を行っている。
 ②ナレッジ・マネジメント:知識が重要な経営資源であることは、以前から研
 究者によって指摘されていた。実際に知識を経営資源として活用するために、
 組織内における知識構造と知識の移転プロセスについて研究を行っている。
 ③知的財産戦略:経営資源としての知識は、知的資産といわれている。その中
 でも、法的な権利として確立されている知的財産権を対象に、企業の知的財
 産戦略と知的財産マネジメント組織について研究を行っている。
 主要業績 著書
 『ハイテク・マーケティング』共著 成文堂新光社 1990年
 『知識経営実践論』共著 白桃書房 2001年
 『イノベーションとベンチャー企業』共著 八千代出版 2001年
 『価値創造システムとしての企業』共著 学文社 2003年
 論文
 「流通分野の情報ネットワーク化に関する考察」オフィス・オートメーション
 学会論文誌『情報系』第4号
 「日本企業の知的財産戦略と組織機能」『富山短期大学紀要』No.36.1996年
 `Changing Roles of Intellectual Property division in Japanese Firms' Proceedings
 Vol-2 Papers:Presented at PICMET `01 2001年
 所属学会 組織学会、研究・技術計画学会、日本商業学会、経営情報学会、日本知財学会



マツイ タカオ
氏名 松井 孝雄 MATUI Takao
性別 男
生年月日 1963年6月29日生
職名 助教授 (1998年4月)
連絡方法 E-mail : mat@nuis.ac.jp
学歴 1986年 京都大学教育学部教育心理学科卒業
 1989年 北海道大学大学院文学研究科行動科学専攻修士課程修了
 1992年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻後期博士課程単位取得退学
学位 1997年2月 博士 (心理学) (慶應義塾大学)
職歴 1992年～1994年 慶應義塾大学非常勤講師 (心理学実験)
 1994年～1998年 新潟国際情報大学専任講師
受賞歴 1996年6月 日本認知科学会大会発表賞
研究分野 専攻は認知科学および認知心理学で特に人間の非言語的認知の性質に興味をもっている。これまでの主な研究テーマは以下の通り。
 ・空間認知の異方性 (個人研究および国内共同研究)
 ・潜在学習と意識的処理の関係 (個人研究および国内共同研究)
 ・ネットワークコミュニケーションに対する認知特性の影響 (学内共同研究および国内共同研究)
主要業績 **著書**
 ①『日常認知の心理学』井上・佐藤 (編著) 2002年 北大路書房
 ②『イメージと認知』乾・安西 (編) 2001年 岩波書店
 ③『グラフィック認知心理学』森敏昭・井上毅・松井孝雄 1995年 サイエンス社
論文
 ①「身体周囲の空間に対する空間認知」加藤健二・松井孝雄 1998年 認知科学、5 (3)、5-14
 ②「空間認知における異方性の研究」松井孝雄 1997年 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士論文
 ③「潜在学習」村越真・松井孝雄 1995年 認知科学、2 (3)、12-23
 ④「対称性判断における参照枠と知覚統合」松井孝雄・小谷津孝明 1992年 基礎心理学研究、11、1-8
所属学会 日本認知科学会
 日本心理学会
 日本教育心理学会
 日本基礎心理学会
 日本イメージ心理学会
その他 1995年9月・1997年3月 通産省工業技術院電子技術総合研究所流動研究員
 1996年～1997年 文部省放送教育開発センター共同研究員
 1999年～ 文部省メディア教育開発センター研究協力者
 1996年3月～2000年11月 日本認知科学会編集委員
 1999年1月～ 日本認知科学会運営委員



氏名 山口 直人 YAMAGUCHI Naoto
 性別 男
 生年月日 1957年3月31日生
 職名 助教授 (1999年4月)
 連絡方法 E-mail : yamaguti@nuis.ac.jp
 学歴 1979年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
 1996年 東京工業大学大学院社会工学専攻博士課程修了
 学位 工学士 (東京工業大学、1992年3月)
 職歴 1979年4月～1999年3月 宇都宮市役所勤務
 1991年～1993年 東京工業大学工学部非常勤講師
 1996年～日本女子大学人間社会学部非常勤講師

研究分野 専門は、計画学、コンピュータによるデータ解析および都市システム理論ですが、データ解析の純粋な理論を研究するのではなく、現実のデータを用いての実証研究です。長年、行政実務を行って来ましたが、都市計画という立場で、都市や地域をデータによって解析するという仕事を中心でした。政策を立案して検討・協議することを科学的に行うために、都市システムモデルというものを学び、都市シミュレータを作成して来ましたが、当時はコンピュータ単体上で単独で動かすものだったために、行政の現場に定着することは難し状況でした。その後、その都市シミュレータを中心として、データベースやプレゼンテーションツールを統合し、さらにネットワークシステムとして、多くの人(担当者)が使えるようにするための研究をして来ました。これからは、行政庁内のシステムから地域社会へも範囲を広げて、地域の人たちと接しながら、行政計画を立案し策定するシステムを研究したいと考えています。

主要業績

論文

- ①熊田、兼田、五十嵐、山口 (1990) 「Gaming/Simulation to Create Planning Culture」 ISAGA/NASAGA
- ②山口 (1991) 「地方自治体における計画策定支援システムの整備方策」 日本都市情報学会
- ③山口 (1991) 「地方都市における住民の居住環境評価の構造と空間分布」 日本地域学会
- ④山口、五十嵐 (1993) 「計画策定支援型都市情報システムの核としての都市システムモデルの開発に関する研究」 日本都市情報学会
- ⑤山口 (2000) 「日本の地方自治体におけるGISの現状と整備要件」 新潟国際情報大学 紀要第3号

調査報告書

- ①宇都宮市 (1986) 「宇都宮市の将来人口 (試算)」
- ②宇都宮市 (1988) 「公共施設整備の現状と期待水準の試算」
- ③宇都宮市、日本計画行政学会 (1992) 「宇都宮市計画策定支援システム整備報告書1」

所属学会

- 日本統計学会
- 日本地域学会
- 人文地理学会
- 日本都市計画学会
- 日本社会情報学会
- 地理情報システム学会



オオヤマ タケシ
 氏名 大山 毅 OHYAMA Takeshi
 性別 男
 生年月日 1940年3月2日生
 職名 講師 (1994年4月)
 連絡方法 E-mail : ohyama@nuis.ac.jp
 学歴 1964年 神奈川大学工学部応用化学科卒業
 学位 学士 (工学、1964年3月)
 職歴 1964年4月～1966年2月 川口化学工業株式会社
 1966年4月～1994年3月 慶應義塾大学理工学部

研究分野 人間工学の立場から人間の特性およびその測定方法について研究しています。
 また、職場や家庭など生活のあらゆる場面において、人間が「快適」であるための条件を探り、「快適」であることを実現することをめざしています。

主要業績 論文
 ①「四日市コンビナートの事故におけるヒューマンエラーの分析」(共著)
 (1990.12.12, Technical Report No.90003, Department of Administration
 Engineering Faculty of Science and Technology Keio University)
 ②「超音波探傷における作業姿勢の影響」(共著)(日本設備管理学会誌 Vol.5
 No.1, 8-15,1993)
 ③「手動制御系における予測情報の効果」(人間工学 Vol.29 No.5,313-
 319,1993)
 ④「コンビナートにおけるヒューマンエラーの相関分析」(1993.4.2,
 Technical Report No.93004, Department of Administration Engineering
 Faculty of Science and Technology Keio University)
 ⑤「反応時間に関する一研究」(1993.5.10,Technical Report No.93009,
 Department of Administration Engineering Faculty of Science and
 Technology Keio University)

所属学会 日本人間工学会
 バイオメカニズム学会
 日本設備管理学会
 情報文化学会

その他 日本人間工学会評議員



氏名 河原 和好, KAWAHARA Kazuyoshi
カワハラ カズヨシ
 性別 男
 生年月日 1969年9月8日生
 職名 講師 (1999年4月)
 連絡方法 E-mail : kawahara@nuis.ac.jp
 学歴 1993年 信州大学工学部情報工学科卒業
 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了
 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了
 学位 博士 (工学) (信州大学、1998年3月)
 職歴 1998年4月～1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤
 研究員
 研究分野 画像処理に関する研究。ファジィ理論の画像処理への応用 (個人研究)、医療
 用画像処理 (国内共同研究)、3次元画像処理 (個人研究)。
 主要業績 論文
 ① 「ファジィテンプレートを基にしたファジィ位相とその画像処理への応用」
 (共著)、1994年2月、信州大学工学部紀要 第74号、pp.113-122
 ② 「FINITE TOPOLOGY BASED ON FUZZY TEMPLATES AND ITS
 APPLICATIONS」 (共著)、1994年11月、Proc.of the 1st MAGNETO-ELEC-
 TRONICS International Symposium、PP.461-464
 ③ 「Image Processing with Fuzzy Set Theory」 (共著)、1995年12月 Second
 Asian Conference On Computer Vision(ACCV'95)、Vol. I pp.494-498
 ④ 「ファジィ理論を用いた画像処理」 (共著)、1997年1月、電子情報通信学会
 論文誌 D-II、Vol.J80-D-II、No.1、pp.166-174
 ⑤ 「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with
 Fuzzy Set」 (共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on
 Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97)、Vol.2、pp.1013-1016
 ⑥ 「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」 (共著)、1997年12月
 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech
 and Image Technologies for Computing and Telecommunications、Vol.1
 pp.333-334
 ⑦ 「Edge Analysis of Digital Mammogram」 (共著)、1999年10月、Proc.of 2nd
 MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、pp.339-342
 所属学会 電子情報通信学会
 医用画像学会



氏名 小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi
 性別 男
 生年月日 1969年5月3日生
 職名 講師 (2000年4月)
 連絡方法 E-mail : komiyama@nuis.ac.jp
 学歴 1994年 中央大学文学部社会学科卒業
 1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了
 1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程中退
 学位 社会学修士 (中央大学、1996年3月)
 職歴 1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師
 研究分野 専門は社会学です。主に統計的な社会調査によって得られたデータを分析し、
 以下のようなテーマに取り組んでおります (少数事例調査や第二次資料を用いた研究なども行っています)。
 1) 人々の多様な意識のバリエーションとその生成の仕組みを明らかにすること
 2) 多様な意識をもつ人々が混在する社会における制度・慣習等についての合意可能性
 3) 制度・慣習等が人々の意識・行動に与える影響

主要業績 論文
 ① 「Perception of "effort," "Ability," and "Equal Opportunity" in Japanese Society」 (M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be, Ministry of Education, Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report, 09410050, 2000 pp.87-100)
 ② 「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」 (紀要 中央大学文学部社会学科第10号 pp.199-213 2000年)
 ③ 「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」 (社会科学研究所年報 第3号 pp.67-79 1999年)
 ④ 「日本の公正地図」 (宮野勝[編] 『公平感と社会階層』 科研報告書 pp.195-214 1998年)
 ⑤ 「高齢者自殺率の都道府県格差を説明するモデルの構築」 (大学院研究年報 第27号 pp.159-174 1998年)
 ⑥ 「新聞における公正」 (宮野勝[編] 「日本人の公正観」 中央大学社会科学研究所報告書 第17号 pp.193-202 1996年)
 ⑦ 「公正観の深層理解:自由面接データの分析」 (宮野勝[編] 社会的公正の研究:理論実証・応用 科研報告書 pp.154-165 1996年)

所属学会 数理社会学会
 日本社会学会
 関東社会学会
 日本行動計量学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

ササキ トコ
佐々木 桐子 SASAKI Toko
女
1972年2月22日生
講師 (2001年4月)
E-mail : tohko@nuis.ac.jp
1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業
1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了
1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生
2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学
経営学修士 (東洋大学、1996年3月)

学位
職歴
研究分野

より大規模かつ複雑化する生産・ロジスティクスシステムを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。構築したモデルに、既存企業の“as-is”, “to-be” の生産・ロジスティクスシステムに関するデータを入力し、より詳細な比較・検討を行う。

主要業績

論文

- ① 「ロジスティクスにおけるリエンジニアリング」『東洋大学大学院紀要』第32集、pp.111-137、1995.
- ② 「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18,No.4-2,pp.99-102,1997.
- ③ 「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18,No.4-2,pp.133-136,1998.
- ④ 「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」『オフィス・オートメーション』Vol.20,No.3,pp.76-82,2000.
- ⑤ “A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, Studies in Informatics and Sciences, No.13, pp.81-89, 2001.

所属学会

オフィス・オートメーション学会
日本生産管理学会
日本経営システム学会

新潟国際情報大学研究者総覧 2003

2003年4月発行

編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies